

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜盲学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年1月31日(水) 13:30~15:30
- 3 開催場所 岐阜盲学校 多目的室
- 4 参加者  
会長 池谷 尚剛 岐阜大学教育学部 名誉教授  
副会長 栗野 粧子 本校PTA 会長  
委員 平井 花画 岐阜県ユネスコ協会 会長  
松本 公 京町自治会連合会 会長  
吉田みはる 本校同窓生 吉田はり灸院  
  
学校側 兒玉 哲也 校長  
立川 麻里子 教頭  
竹花 容子 事務部長  
遠藤 志保 小学部主事  
堤 鉄博 中学部主事  
端場 政博 高等部主事  
久保 直人 教務主任

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (1) 令和5年度 本校取組について

- ・学校評価アンケートの結果と考察の報告  
学校評価アンケートについての分析、考察の報告
- ・各学部の取組等の紹介  
学部ごとに今年度の取組をまとめ、プレゼンテーション

意見1： 理療科の生徒が卒業後に理療の道へ進むのは経済的、情報量の差で厳しい現実があるのではないかと感じている。晴眼者も理療の道を選ぶことが増えてきて、健常者と共に働く難しさもある。視覚障がい者の進路として、理療だけでなく情報分野など他の選択肢も必要ではないかと感じている。

意見2： 子どもの進路を考えていく中で、実習先の地域が限定されるなど不安に思うことがある。特P連の研修会で、可茂特別支援学校を見学した。設備が充実していて仕事の経験ができるなど職業教育が充実していた。

意見3： コロナ禍で学校と地域との繋がりが少なくなったように感じている。以前は近所の子どもが学校のグラウンドに遊びに来ていた。近隣住民が校舎内に遊びに来ることをどのように考えているか。

事務部長→グラウンドに大きな陥没があるため気を付けて利用していただきたい。

意見4： 高校生との交流は両校にとっても有意義だと思う。体験したことが、将来の糧になると思う。修学旅行で触ることを重視することの大切さが伝わってきた。触覚を活用した取り組みにもいろいろな感じ方があり奥が深いと感じている。

意見 5 : コロナの影響が多少癒えてきて、以前の様子を取り戻せてきていると感じる。視覚障がい教育が今後、こういった方向になっていくべきかの変わり際に来ている。

(2) 児童生徒減に関わる取組、校名変更について

校長 : この 18 年間で、児童生徒数が 55 パーセント減少している。弱視の通級指導が他県では少しずつ増えている。

【打って出る盲学校】

①「地域に点在する視覚障害児への支援の充実」②「理療教育の振興」に重点を置いて取り組んでいる。また、今年度は職員にアンケートを実施し、校名変更の検討を行った。委員の皆様からも意見をお聞きしたい。

意見 1 : 「盲」という言葉に抵抗がある人は多い。校名を変えることに賛成している。

意見 2 : 子どもが入学する前は「盲」という文字に抵抗があったが、今は愛着を感じている。子どもは今のままの校名「盲学校」がよいと感じているが、母親としては校名変更してもよいと感じている。

意見 3 : 時代の流れに合わせて校名変更していくのはよいと考える。校名は短い方が覚えやすく良いと考える。

意見 4 : 【打って出る盲学校】の取組について、現場の先生方はどのように感じているか。

教頭 : 学校長が職員会議で提案し、リーダーシップをとっている。それを受けて、各分掌や学部でできることを具体化して行動している。

高主事 : 見えづらさのある児童が、地域の小学校に通っている場合には自分がどういう視覚支援を受ければよいのか、本人や保護者が知る必要がある。盲学校を選択することで視覚支援を受けることができる一方で、地域との交流が難しくなる。子どもの特性や保護者の方の考え方など総合的に判断して通学する学校を決めていく必要がある。

意見 4 : 学校へ支援に行くと、眼鏡で矯正できていない児童が小学校にいる。地域の小学校でも視覚支援が必要ではないか。自分の子どもが特別支援学級で学ぶことを拒む保護者がいることも聞くが、適切な場所で学ぶ必要がある。

校長 : 弱視通級の取組をしていきたいと考えている。見えづらさで困っている児童生徒は確実にいる。単眼鏡やルーペなどの視覚補助具を用いて、学びやすい環境で学習ができるよう提案していくのが盲学校の役割であると考えている。盲学校に通学ができない場合は、教員が居住地の学校に行き支援する取り組みを、今後考えていきたい。

意見 5 : 校名変更については、養護学校から特別支援学校と改名された時に、盲学校と聾学校に関しては校名にこだわり、変更しなかったため県下で現在の校名が定着してきた。日本盲人会連合が 2019 年に日本視覚障害者団体連合と名称を変更したことで今後の流れもできたのではないかと。校名を変更することで、児童生徒の減少が減るか別の問題に感じている。今後は、理療科を卒業した後の職業種について考える必要がある。また、理療科の生徒数が減少していることへの対応として、東海地区一つの学校に理療科の生徒が学ぶ学校を設置するなど広い視野で考えていく必要はあるが、簡単に答えが出る問題でないため、今後も関係者で意見交換が必要になる。今後、140 周年を迎えるにあたって考えていきたい。

## 6 会議のまとめ

- ・第 3 回学校運営協議会は、学校評価アンケートの分析、考察と合わせて各学部の取組をプレゼンし、委員から意見を得る機会とした。
- ・校名変更に関しては、過去に実施したアンケート結果と今年度のアンケート結果から校名変更を考えていく時期になってきた同意を得ることができた。校名変更については、今後継続して審議していく必要がある。
- ・生徒に一人一人に合わせた職業開拓について、今後十分な検討が必要になる。